



全国電機社研結成へ

闘う労働者に結集呼びかけ

十一月闘争を目前にひかえて、全国電機産業界労働者同盟... 先日出立、東芝、日立、富士通、三菱、松下...

全電機産業界労働者同盟、今軍部の撤兵に示されるアメリカの反動化は、こうした内外の危機に...

労働者の真の戦線を結成し、労働者の間に新たな流動状況が起きている。このことは、...

闘争に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...

労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...

労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...

労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...

労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...

労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...

労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...

労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...

労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...

労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...

労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...

労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争、労働者に至る一連の反安保闘争...



安保粉砕・沖縄闘争勝利をめぐってデモ行進する青年労働者たち

ゼネスト体制を構築

反安保労研全国集会開く

二、実態把握から出発

反安保労研全国集会は、個々の労働者の立場、地帯から寄せられる見出し、引出し、結合させ、発るものから共通の問題点が抽出され、...

二、全国に行

第一に、プロレタリア政治運動として、十一月佐藤政権の解体を要求する。...

私の発言

今日、いわゆる「核安保」三原則とする人びとが、八月十九日、東京で全日本労働者同盟、階級闘争のすすむ代表者、活動家会議を開き、...

日中友好運動の転機

大島吾郎
一九六六年末、日共(代々木)の反中国に反対する人びとが団結して日中友好協会(正統)に結成した。...



大西洋からウラル

まで戸びらは開く

昨年十一月ウイーンで鉄のカチンの通商から二六五人の経済金融界の首脳部があつて東欧を世界資本主義市場に統合する方法について討議された。

市場への浸透と 帝国主義の使命

この会合は米国の貿易と海外投資を拡大するための計画を作っているスタンフォード調査研究所(SRI)の正副所長が主眼である。SRIは、より正確には国際SRIが主眼である。米国の法人資本のなかで可成りの部分がSRIの計画を支持している。「つよい国際的利害関係をもった企業家個人」は最低一五五千人と推定され、相談のついでにこれらになつて

いえる、双方の参加者は、「改革の速度を下げ」市場統合を少しばかりおくらせるにすぎないことを意見が一致していた。 トリートにおける指導的投資銀行レマン・ブラザーズの最高首脳部がくまれている。米国の直接の目的は、膨張している東欧市場のなかで、食料の供給を確保し、神聖な帝国主義者の福音を説教することによって、死滅しつつある資本主義体制を救済することにある。開会



仲むつまじい米ソ両国首脳(1967年6月23日グラスボロで)

急展開する米帝国主義の 東欧市場統合計画

SRIがウイーンでやった仕事は、東側との貿易を拡大するために障礙をひくくすること、そのために政府のなかの頑固物の頭をさわらうこと、旧い市場を保護し、神聖な帝国主義者の福音を説教することによって、死滅しつつある資本主義体制を救済することにある。開会

資本主義国とは? 社会主義国とは?

ソ連侵略の少少、「ビジネス・インテリゲンチナル」(BI)はうしろに次のようにかいた。「チェコスロバキアでおこっている政治的経済的変化は、あらゆる国際的な企業を刺激し、東欧の全領域への突破口となる商路をすすめるための計画を作らねばならぬ」

東欧やソ連のような巨大な未開市場(世界で一番巨大な国内市場)だからこそ、ケミカル、G.M.、I.B.M.、I.T.T.、ユニオン・カーバイド(東欧販売事務所をみなウイーンに設けている)のようなトランプから六十番目まで入る大企業が、不慮の災とあつて、競争をもった連中を相手に、非交際通貨をばしはしはしたるにもかからず、喜んで進出しているのである。ウイーンSRIの会議の世話役は次のようにいっていた「今日トランプに手をふれた人は、遠からずそれをあげるもの」

本主義を復活しようとしたことを直ちに否定する。彼らは新しい現象を市場社会主義と呼び、ハンガリーのジョゼフ・ボグナールは世界資本主義市場への統合が「双方の地域と同一ように利益になるはずである」と主張するだけでなく「政治・社会制度の基礎にある基本的な原則を放棄する」ことには何の疑いもないといっている。

東欧では生産手段と所得の分配を管理し、労働者の労働成果をいろいろの特権と不平等な賃金とボーナスによって専有する終身エリート階級が徐々に成長している。こうして事実上新しい原始資本家階級が権力を握っている。この点で二つのことが考慮されねばならない。第一は東欧における国家資本主義の発展と並行して私的資本主義と企業精神(すなわちユーゴスラビアですすめられている)が盛んになり始められたことである。

者のトロイの木馬

「国際的な経済協力はまず第一に、産業諸部門よりもむしろ企業間の協力に基づきおこなわれねばならず、専門化の相互の促進を強調しなければならぬ。」

このような緊密な資本主義的関係を、帝国主義国とソ連のトロイの木馬の革命的無敵の間にむすぶことは至難である。「東西貿易」は東欧に資本主義を復活させるためのトロイの木馬であることは明らかである。「ビジネス・インテリゲンチナル」は「発展する東欧市場」というパンフレットで二年前にこの傾向を指摘している。「

またまた資本主義への接近は、西側との「政治的和解」への願望としてあらわれる。「政治的和解」は大部分にユーゴスラビアでおこなわれ、これは外国投資を公然と奨励されており、ウイーン集会所が無愛想に結論したように、ユーゴスラビアの「産業経済は東欧諸国のそれよりも西側諸国の方にかたがた近い」ウイーンSRIの資料によるとチェコスロバキアの企業家は「まったく自由にならぬ企業をおこすことができる」もし貿易があらゆる経済的な力量によって拡大されるなら、次は政治的和解がえられると語った。

資本主義の革新の速い実験を経営者がやるようにするべきは、これは東欧諸国内の階級関係の状況に因る。SRIのH.B.ロビンソンは報告のなかで次のようにいっている。「技術と消費市場の二つの要素は、東側の国々において企業の意志決定に労働者が積極的に参加するのをきたしている。東側の階級がより消費者向けになるにつれて、労働者は意思決定の参加を拡大するよりも、より高い収入、より高い生活水準の方を強調するようになる。これはほとんどの西側諸国で以前からみられたことである。」

経営者の戦略—新 支配階級の理論

資本主義下の除外された労働に関する見なれた叙述をもって、物質的報酬に関するSRIの考えをおりませながら(少なくともチェコスロバキアでは最近実質賃金の低下と失業の増加がつづいているのである)ロビンソンは次のような推論を下している。「最近まで若年の東欧諸国の計画立案者と指導者は、西側の経営階級